

第65回役員会 議事要録

日 時：平成27年2月23日(月) 14:00～15:00

会 場：大学本館 E-703会議室

出席者：石原理事長、近藤副理事長、利島理事、片山理事、梶原理事、松尾理事、江本理事
(オブザーバー) 中野(昌)監事、中野(利)監事、漆原副学長

議 案

- 1 給与制度等の改正について
- 2 ベトナム国家大学ハノイ校との大学間学術交流協定の締結について

報 告

- 1 平成26年度学生表彰について
- 2 学部長等の選考について
- 3 平成26年度卒業予定者の就職内定状況について(12/1)
- 4 ロボット社会創造特区について

議案1 給与制度等の改正について

<質疑応答>なし

- 研究指導する学生の数はどのようにして決まるか。
- 学生が指導を受けたい教員を希望する。
- 国際環境工学部の場合は半数以上が大学院に進学するため、教員一人あたり1名から2名の博士前期課程の学生を指導することになる。
- 学生が全くいない研究室もあるか。
- ある。多い研究室には約10人の学生がいる。
- 博士前期課程と博士後期課程の両方の学生を指導している場合があるが、その場合は全て加算になるか。
- その場合は、博士後期課程が適用される。
- その場合、人数の加算はどうなるか。
- 博士後期課程の学生がカウントされる。
- それはおかしいのではないか。主任指導は論文を指導することとなり、負担がある。研究手当は高い方で適用されるにしても、人数は全てカウントすべきではないか。
- 現在の考え方では、両方の場合、博士後期課程の学生しかカウントしない。
- それでは、博士前期課程で指導しても意味がないのではないか。主任指導と授業を受け持つことは異なる。
- 両方の課程で指導する学生を受け持つ場合は、全て人数を加算することとしたい。
- それが合理的である。

【議長】本議案について、意見のとおり一部修正のうえ承認してよろしいか。

【委員】異議なし

議案2 ベトナム国家大学ハノイ校との大学間学術交流協定の締結について

<質疑応答>

- 大学の負担は増えるか。
- 本学の経済的な負担はほぼ無い。
- 教員の負担はどうか。
- 国際環境工学部の教員は約70名しかおらず、教員が一定期間現地に行く訳には行かないため、夏の集中講義で対応したいと考えている。
- 本学は、水、土壌、下水処理、産業廃棄物等で協力していきたいと考えている。

【議長】原案どおり承認してよろしいか。

【委員】異議なし

報告1 平成26年度学生表彰について

<質疑応答>なし

報告2 学部長等の選考について

<質疑応答>

- 任期は2年となっているが、途中で辞任した場合、後任は前任者の残任期間となるか。
- そうである。

報告3 北九州市立大学一般選抜志願者について

<質疑応答>

- 国際環境工学部が昨年度から最も志願者が減少している。
- 昨年度は前年度から大きく減少しており、今年度も若干減少している。
- 問題はないか。
- 平成24年度までは続けて志願者が増加していた。志願者数はよく隔年減少が起きると言われているが、本学は昨年度急激に減少した経緯がある。数年前と比べると大きく変わってはいない。昨年度は大きく減少したため、今年度は増加するかと思っていたが、数学の影響で志願者が減少しているようである。
- 今の高校生は数学を勉強していない。
- 今の学生は数学力が弱まっている。ゆとり教育の影響が顕著に現れている。
- ゆとり教育の学生はいつまでか。
- 昨年度受験した高校生まで、今回からゆとり教育でない高校生が受験している。
- 経済学部にも数学の受験科目がある。
- 昨年度と比べ、経済学部の数学の選択受験は、両学科とも減少している。
- 経済学部の数学が選択科目か。
- 英語か数学かの選択である。
- 理系になると、英語を嫌がる傾向があり、また、数学のウェイトが高くても嫌がる傾向がある。
- 英語にしても、語学系学部以外では、基礎が出来ていない学生がいる。
- ここ10年、20年のスパンで見た時に、数学と英語のレベルがかなり落ちてきている。

報告4 ロボット社会創造特区について

<質疑応答>

○自動車の完全自動走行を目指すか。

○自動走行にも4つのレベルがある。最も高いレベル4は完全な自動走行であり、人が乗る必要がないが、自動車会社の責任問題がある。レベル3は人が乗り、何かあった場合に対処できるようにする状態であり、国はそのレベルを考えている。しかし、現在レベル4を実施できないか、検討しているところである。

○レベル4を実施するには街を作り変える必要がある。現在の街でレベル4を実施すると路面等の設備を大幅に整備する必要があり、それだと人が運転したほうが良いということになる。まず、実証のための街を作り、そこで実験をやったらよい。

○現実問題として、レベル4では事故が起きた場合の責任問題がある。本学もロボット産業に向け力を入れていきたい。